ケアハウスを設置する考えは

町長　アンケート調査結果等を参考に検討する

中河 つる子　議員

問　第７期清水町高齢者保健福祉計画の中に「住み慣れた地域で助け合い、自分らしく生きていくことのできる社会の実現を目指す」とある。

　昨年３月の一般質問でケアハウスの質問をしたが、「介護保険事業計画の策定の際にニーズを把握し、必要があれば計画に盛り込む」との答弁だった。

　高齢者が一人で住むことに不安を感じるようになったときに安心して住むことのできる、世話をしてくれる家（ケアハウス）があれば、この町に住み続けることができると思うが、設置の考えはないか伺う。

町長　ケアハウスは身体的機能の低下により自立した生活を営むことに不安がある高齢者を対象とした施設で、一般型・介護型の２種類に区分されている。

　ケアハウスは社会福祉法人等によって運営される公的側面が強い施設で、十勝管内にも数施設が設置されているが、近年の設置はない状況である。

　本町においても高齢の単身者世帯や夫婦世帯が増加することが予測されることから、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会の中でのアンケート調査結果等を参考に、必要な施設整備について検討する。

お互いの近況を語り合える「お楽しみ昼食会」

問　高齢者の日常は通院が多い。町内のかかりつけ医のほか、専門の医師に診てもらうため、帯広の眼科、耳鼻科、整形外科に通う人が多い。通院のために多くの時間とお金を費やしている。

　これらの病気を診てくれる医師に本町へ来てもらうことはできないか伺う。

町長　町内の医療機関において、整形外科・耳鼻咽喉科・皮膚科等の診療が行われているところであり、さらに泌尿器科の診療も毎月２回行われている。

　しかし、眼科の診療については医師の確保が難しく、機器等の整備が高額であるため診療は行われていない状況である。

　町内の医療機関における診療科の充実については、今後も医療機関と協議を行っていく必要があるが、現状は帯広市を中心とした専門医の診療が必要であり、清水帯広線バスの利用や、一部医療機関において実施されている送迎等を利用していただきたい。

ある町内会での「ふれあいティータイム」

介護用品購入費用の助成対象者の拡大を

町長　検討する

川上　均　議員

問　おむつ等の介護用品購入費用助成対象者を「要介護１」以上に引き下げては。

町長　財源確保の問題もあるが、対象者の拡大を検討する。

売り場面積の大きい大人用紙おむつ

問　65歳以上の高齢者世帯に月１回の布団洗濯乾燥サービスを実施しては。

町長　多くの世帯が対象となるため実施は難しい。

問　中等度の難聴者に上限５万円の補聴器購入助成を実施する考えは。

町長　現状では、今の制度の中で対応したい。

問　民生児童委員サポーター制度導入の検討状況は。

町長　北海道民生委員児童委員連盟において、制度の構築を進めている。

　本町においても、制度内容を確認しながら検討を進めていく。

避難所のコロナ対策にテントの活用を

町長　屋内型テント１００張を購入済み

問　医療関係者等のＰＣＲ検査費用を、町で負担できないか。

町長　現状では、費用負担は考えていない。

問　避難所のプライバシー保護とコロナ対策に、テントを活用しては。

町長　避難所用テントを１００張購入しており、これらを最大限活用したい。

問　農業研修会館をコロナ陽性者の軽症者用施設として使用できないか。

町長　十勝管内で１００室の宿泊施設を確保する予定であり、公共施設の活用は考えられていない。

問　執行できなかった事業の予算残を「コロナ対策基金」として積み立て、コロナ対策に充てては。

町長　基金を新設する予定はない。財政調整基金を取り崩しながら必要な対策を講じる。

問　時代に合わせた移住対策について考えを伺う。

町長　仕事をしながら観光や暮らしを体験する「ワーケーション」への関心が高まっている。

　農村部の光ファイバー整備で空き住宅等を活用したテレワークオフィスへの展開なども考えられる。

再任用制度の運用は

町長　状況を見て検討

問　役場定年退職者の再任用と技術職の採用計画について考えを伺う。

町長　現時点では再任用制度を運用する考えはないが、今後は状況を見て検討する。

　技術職員は今後の退職状況を見ながら、計画的に採用する。